2011年度年次報告書

国際青年環境 NGO
A SEED JAPAN

代表の言葉

私は大学３年生の冬に、A SEED JAPAN（以下、ASJ）のオリエンテーションに初めて参加しました。そのとき、当時のメンバーから話を聞き、「学生中心の市民活動でここまで社会を変えられるんだ！」と強く感銘を受けたことを、いまでも鮮明に覚えています。

あれから2年半が経った2011年度、日本では、東日本大震災・福島第一原発事故を契機に、市民活動の真価がより強く求められるようになりました。しかし一方で、上半期はもとめられるものが大きいだけにプレッシャーが大きく、また、人が入れ替わる時期も重なったことから、事務局と理事会、そして各チーム・プロジェクトの一体感を失ってしまい、いままさに取り組むべき問題に真っ向から向き合い“活動”を推進することができない状況でした。

そうした状況に危機感を覚え、下半期には「ASJが目指す“活動”とは何か」という命題に徹底的に向かい合い、議論を重ねました。その結果、青年自らの手で社会を変えていくことこそがASJの使命であること、どんな活動を展開していても問題の原因に対して直接行動をすること、といったASJの“根っこ”を皆でしっかりと共有することができました。過去の蓄積を活かしつつ“今”のメンバーで問題の構造を見据え、解決するための活動をしていくことができる。

これこそが青年団体として、そしてNGOとしてのA SEED JAPANの魅力であると、今、改めて実感しています。そして、私たちが社会変革を目指して活動を続けていくためには、会員のみなさまの多大なるご支援・ご協力が必要です。これからも、私たちの活動を厳しくもあたたかい目で見守っていただきますよう、よろしくお願いいたします。

2011年度代表　草刈良允

A SEED JAPANの使命

A SEED JAPANは、環境問題の中に内在する社会的不公正の解決を目指し、以下のことを踏まえ行動します。

1. 環境問題を経済や社会構造そのものから見据えていきます。

私たちは、環境問題や南北問題が進行している原因が経済や社会の構造そのものにあると考え、その根本にある原因を見据えて行動します。

2. 青年の立場から環境問題をわかりやすく伝えていきます。

私たちは、環境問題や社会的不公正について、それらの問題と私たちのライフスタイルが密接につながっていることを青年をはじめとする多くの人々にわかりやすく伝えていきます。

3. 長期的視野を持って社会を変えていきます。

私たちは、地球の未来を危惧するメッセージを継続的に発していきます。そして、長期的な視野を持ち、現在の社会システムを変えていくための提案と行動を起こしていきます。

また、A SEED JAPANは以下の立場を担っていこうという認識を持ち、行動します。

●未来世代である青年としての立場

私たちは、青年としての立場から未来世代の利益を訴えていきます。また、現在の社会を変革し、新しい社会を創造していくことのできる存在として、誇りを持って活動します。

●NPO（非営利組織）としての立場

私たちは、NPOの一員として、その社会的責任を認識して継続的に組織を運営していきます。そしてNPO全体が相対的に強化されるように協力していきます。

●行政・企業・NPOのパートナーシップを創造していく立場

私たちは、環境問題を解決する為には、行政・企業・NPOのそれぞれが持つ問題解決能力をお互いに理解し、連携していくべきだと考えます。私たちは行政・企業とのパートナーシップ、そしてNPO同士のパートナーシップを創造していきます。

●世界の青年と協力し合う立場

私たちは、国境を越えた環境問題に対応するためにも、また“南”の視点を充分に理解するためにも、草の根で活躍する世界の青年達と積極的に協力していきます。

各チーム・プロジェクトの活動報告

ごみゼロナビゲーションチーム

2011年は、従来の活動を展開しつつ、新しい事にもいろいろとチャレンジした１年でした。
まず、ecoアクションキャンペーンのノベルティとして、参加者が「モノ」をもらうのではなく参加者自身が支援したい団体を選び、その参加者に代わって選ばれら団体に１人100円を寄付するという、ecoアクショングッズを導入しました。
次に、ap bank fes’11において、来場者がリユースカップの洗浄という、イベントのしくみに参 加できる体験型ツアーを、昨年より回数を増やして実施し、3日間で488名の方にご参加いただきました。これらは、より来場者のイベントへの参加性を高める企画になったと思います。
その他、「石巻ボランティア支援ベース　絆」と連携し、宮城県石巻市にて、がれきの撤去や地域の神社の復興活動、炊き出しなどの活動を行いました。また、コアスタッフが赴くだけでなくボランティア2,000名（これまで当チームが環境対策を行う音楽フェスでの活動に参加経験のある方）にも広く呼びかけて復興活動ボランティアツアーを主催し、「ごみゼロナビゲーションならではの復興支援」として、首都圏の若者が復興支援活動に関わるためのパイプをつくりました。
活動したイベントの数は前年度より若干減少しましたが、「ごみの分別」意識が定着し当たり前になりつつあるため、今後は、分別よりも2歩3歩先の「気づき」を生む活動をつくり出していきたいと思います。

ap bank fes’11でのカップじゃぶじゃぶキャンペーン参加者

エコ貯金プロジェクト

2011年度は東日本大震災や原発事故の社会的重要性を踏まえ、電力会社の主要株主に向けた公開質問状を実施したり、エネルギー問題をテーマとしたダイアローグを開催したりと、これまでのエコ貯金プロジェクトの成果も踏まえながら、社会的なタイミングを強く意識した活動を展開しました。またこれまでメガバンク3社のみに送付していた公開質問状を地方銀行、信用金庫、労働金庫なども含めて192社に送付するなど、新規性の高い取り組みも多く実施しました。

エコプロダクツ2011出展ブースの様子

生物多様性の利用をフェアに！プロジェクト

2010年10月に遺伝資源へのアクセスと利益配分に関する名古屋議定書が採択されたことで、2011年は各国で国内制度を検討し始める年度となりました。議定書を各国内で実質的に運用していくためには、国内法が必要とされています。しかしながら、企業活動に影響を与える可能性があることなどから、国内法措置に対して反対する声が一部の省庁から上がりました。そこで、既に国内法を策定しているスペイン、ノルウェーに渡航し、どのような経緯で国内法が設置されたのかその内容も含めて、ヒアリング調査を行い、実施結果についてのセミナーを開催し、関係省庁に報告しました。2012年度から始まる国内制度に関する本格的な討議を前に、その土台をつくることができたのではないかと考えています。
このように、ABS名古屋議定書に係る国内制度は未だ検討段階ですが、メンバーの諸事情によりプロジェクトは2011年度をもって解散します。しかし、2011年度理事小林が、2012年度環境省職員としての勤務する事となり、ABS名古屋議定書に係る業務を遂行する事となりました。メンバーそれぞれの立場は大きく変わりますが、当プロジェクトが掲げてきた目標達成のしくみをつくることができるよう、引き続き尽力していきます。

広島調査でのジーンバンク内部の様子

メディアCSRプロジェクト

2011年3月11日以降に日本を襲った事態は、テレビ局をはじめとするメディアの社会的影響力の大きさを、私たちに再認識させました。そうした状況もあり、メディアのCSRに対しての一般市民の関心が高まっていますが、プロジェクトが2009年度より主張し続けてきたメディアCSRがこうした状況になってようやく注目されていることについては、プロジェクトとして力不足を痛感する部分でもあります。
そうした中、民放各局の報道制作者へ粘り強くアプローチを続けた結果、数回に渡る意見交換の場を設ける事ができたことは、大きな成果となりました。また、民放各局が早朝枠ではあるにせよ、自社番組を批評・検証する番組を放送するなどの客観的視点を持った番組制作への姿勢は見られますが、テレビ局自身のCSRについては、環境保全への取組み程度の認識に留まっており、テレビ局と視聴者の対話を促していく必要性を改めて感じています。

ホンキでテレビがCSRフォーラムの様子

水源WATCH！プロジェクト

2011年度は、水問題の啓発に力を入れた１年でした。野外音楽フェスでのブース出 展やトークイベントでは、2010年度に訪れた山梨県北杜市で起きている地下水の過剰取水による問題や、水と私たちの生活との強いつながりについて、参加者の方々にただお伝えするだけではなく、そこから一人ひとりに何ができるのかを考えてもらえるよう、ワールドカフェという対話の手法やワークショップといった新たな工夫を毎回取り入れました。

また、6月に実施した日本の清涼飲料メーカーに対する公開質問状も、今年の大きな成果であったと感じています。セミナー等で回答結果を公開した際には、企業だけではなく、各地方自治体や私たち消費者も動いていく必要がある、といった意見が多く、青年でありNGOである私たちが、水問題に“いま”取り組んでいくことの大切さを改めて実感しました。

FUJI ROCK FESTIVAL’11
出展ブースの様子

ケータイゴリラチーム

市場やしくみなど携帯電話のリユースについての現状調査、パートナー企業の選定、リスクの把握と対策づくりなど一つひとつに時間はかかりましたが、2011年度における大きな目標であった「リユースとしての回収」を実現できたことが、チームの最大の成果だと考えています。

また、WEBサイトのリニューアル、ブログの開設などを通して発信力を高めることができましたが、これらを戦略的に使えていないという課題も残ります。内部的には、2011年冬のオリエンテーションで５名ものメンバーが新たに加わり、チームができることも広がってきているため、今後はアフリカツアーの成果を活動に活かすことや、現地NGOとの連携を強化することなど、2011年度にやりきれなかったことを一つひとつ達成していきたいと考えています。

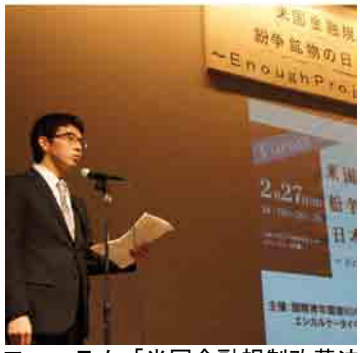
プロジェクトのバナーを持つ
チームメンバー

エシカルメタルプロジェクト

2011年度は、ドッド・フランク法（米国金融規制改革法）への企業の対応が始まる年度であることから、公開質問状の送付や、主に電子機器メーカーや商社・鉱業企業を対象としたフォーラムやラウンドテーブルの開催など、企業への提言活動を中心に行いました。一部の企業には、金属資源の調達方針を策定するなどの動きが見られました。

ただし、あくまでもドッド・フランク法への対応という側面が強く、紛争鉱物以外の資源採掘に関する問題（環境破壊、違法労働、先住民の権利侵害等）に関してはまだまだ十分に対応されていないのが実情です。

一方、市民向けの啓発活動に関しては、ブース出展の回数が予定より少なく、賛同者も目標を達成できなかったなど、十分に行うことができませんでした。
エシカルメタルプロジェクトという形では、今年度で活動を終了しますが、今後は未来生活nowプロジェクトの一部として、今年度充分に行うことができなかったエシカルケータイキャンペーンでの普及啓発等の活動を行っていきたいと考えています。



フォーラム「米国金融規制改革法と紛争鉱物の日本企業への影響」の様子

STOP水銀輸出プロジェクト

2010年5月にプロジェクトを発足してから現在に至るまで、かつて水俣病を経験した日本に今を生きる「青年」という立場から、水銀汚染のない社会を実現させるべく活動を続けてきました。その中で2011年度は、10-11月にケニア・ナイロビで開催されたINC3（水銀に関する条約の制定に向けた政府間交渉委員会第3回政府間交渉委員会）への参加がきっかけとなり、セミナーや勉強会を通して、水銀問題の啓発にも積極的に取り組みました。メンバーの諸事情により2012年３月31日をもってプロジェクトは解散しましたが、今後も市民の一人として、水俣病の教訓を活し、水銀の使用状況にまで目を向けた制度づくりが日本政府により成されることを期待します。

INC３会議場内部の様子

2011年度の実施事業一覧

No	月	内容／イベント名称	実施主体
1	年度を通じた事業	イベントでの活動の実施(22本のイベント、うち6本は音楽以外のイベント)	ごみゼロナビゲーション
2		ごみ・資源分別ナビゲート活動の実施（15本のイベント）	
3		ecoアクションキャンペーンの実施(8,099名の参加)	
4		1,695名のボランティアの参加	
5		リユースカップ・食器の導入(10本のイベント)	
6		ライブハウス等でのリユースカップの導入（全国296店舗/施設）	
7		関係省庁への政策提言活動（毎月1回程度）	生物多様性の利用をフェアに！
8		5,000件近く集めた「視聴者の声」ツイートによる番組アカウント及び報道番組制作者への提出	メディアCSR
9		週1度twitter上で報道番組に、リアルタイムで意見を届ける企画「ニュースツイート」を実施	
10		携帯電話10,727台の回収（今年度は企業５社よりの大量回収）	ケータイゴリラ
11		携帯電話の白ロム化（リユース）の調査・パートナー企業選定・エコプロダクツ2011での実験的回収	
12		WEB上でのエコ貯金宣言集め	エコ貯金
13	4	アースデイ東京2011ブース出展	エコ貯金、メディアCSR、水源WATCH!、ケータイゴリラ、エシカルメタル
14	5	「アースデイ東京2011　アフター・セミナー　水源WATCHなう！-みんなの”つぶやき”で水源を守ろう！-」セミナー開催	水源WATCH!
15	6	公開質問状による企業実態調査	生物多様性の利用をフェアに！
16		「脱原発・エネルギーシフトをめざす 6･4シンポジウム～これからの「未来」の話をしよう！自然エネルギー主流のエネルギー政策は可能だ！～」フォーラム開催	A SEED JAPAN全体
17		第2回CSRアンケート（公開質問状）の送付と公開	メディアCSR
18		主要機関投資家への「原子力エネルギーに関する議決権行使意向等に関する」公開質問状の送付と結果の公開	エコ貯金
19		清涼飲料メーカー48 社へ「各取水源における地下水取水」に関する公開質問状の送付とフォーラム・セミナーにおける公開	水源WATCH！
20	7	ジーンバンク実態調査（広島県）	生物多様性の利用をフェアに！
21		STOP水銀輸出WEBサイトの立ち上げと情報発信	STOP水銀輸出
22		水銀問題勉強会「海外の水銀汚染と日本の水銀輸出～繰り返してはならない水俣病～」	
23		ap bank fes’11への出展	水源WATCH！
24		「第2回ホンキでテレビがCSRフォーラム」の開催とWEBサイトやブログなどでの公開	メディアCSR
25		FUJI ROCK FESTIVAL’11ブース出展	水源WATCH！
26	8	INC3に向けた「第３回政府間交渉委員会に提出されたドラフトテキストへの意見書」の作成と関係省庁（環境省、経産省、外務省）への提出	STOP水銀輸出
27		ABS国内法などの実施状況に関する実態調査（ノルウェー、イギリス、スペイン）	生物多様性の利用をフェアに！
28		8月30日～9月2日まで「石巻ボランティアベース絆」で復興支援活動（バスをチャーターし、ボランティア40名強をコーディネート）	ごみゼロナビゲーション

No	月	内容／イベント名称	実施主体
29	9	鉱物資源に関わる企業への「エシカルな鉱物・金属調達に関する公開質問状 2011」の送付	エシカルメタル
30		「2013 年水銀条約制定に向けて～水銀の貿易と世界の MINAMATA～」セミナー開催	STOP 水銀輸出
31		「グリーンエコノミーのためのエコ貯金ワークショップ～金融機関を“社会性”の視点から選ぶということ～（東京都）」開催	エコ貯金
32		グリーンエコノミ―ダイアローグ第１弾「エネルギー×金融～いま私たちが創造すべきおカネの流れ～」	
33	10	都市銀行・地方銀行・主要信用金庫・労働金庫への「CSR 全般をテーマとした」公開アンケートの送付と結果の公開	
34		「グリーン・エコノミー×水 ～“いのちの再生産”を実現するための水の利用と供給とは～」フォーラム開催	水源 WATCH！
35		グリーンエコノミー主流化セミナー『名古屋議定書の実行に向けた各国の取り組み』開催	生物多様性の利用をフェアに！
36		御岳山水道施設スタディーツアー（東京都青梅市）	水源 WATCH！
37		INC3 への出席（ケニア･ナイロビ）	STOP 水銀輸出
38	11	「グリーンエコノミーのためのエコ貯金ワークショップ in 大阪～金融機関を“社会性”の視点から選ぶということ～（大阪府）」開催	エコ貯金
39	12	「一粒からでいい、希望の種をまこう」経済革命セミナー 「食から考える『消費ライフ』から『生産ライフ』への第一歩」開催	A SEED JAPAN 全体
40		グリーンエコノミ―ダイアローグ第２弾「震災復興×グリーンエコノミー」開催	エコ貯金
41		エコプロダクツ 2011 ブース出展	エコ貯金、水源 WATCH！、ケータイゴリラ、エシカルメタル
42		エコプロダクツ 2011 セミナー開催	ケータイゴリラ
43		INC3 活報告会―水銀条約をめぐる交渉会議	STOP 水銀輸出
45	2	グリーンエコノミー・シンポジウム 2012「未来生活 NOW！」フォーラム」開催	A SEED JAPAN 全体
46		「情報公開から始まる水保全」セミナー開催	水源 WATCH！
47		「エコ貯金カフェ ～環境や人にやさしく、地域・社会のためになるお金の流れを考える～」開催	エコ貯金
48		「米金融規制改革法と紛争鉱物の日本企業への影響～Enough Project の狙いと今後～」開催	エシカルメタル
49		「米国金融規制改革法と紛争鉱物に関する院内勉強会～Enough Project の動きから学ぶ～」開催	
50		電子機器メーカー･素材メーカー等との意見交換を行うラウンドテーブルの実施	
51	3	グリーンエコノミー主流化ダイアログ『名古屋議定書の下で地域戦略の意義を考える～日本の生物多様性保全に向けて～』開催	生物多様性の利用をフェアに！
52		「グリーンエコノミーシンポジウム～グリーン･エコノミーを実現するための金融とは～」開催	エコ貯金
53		グルーンエコノミー主流化セミナー「ブラジルの森林とわたしたちの生活」開催	A SEED JAPAN 全体

2011年度収支決算書

2011月4月1日から2012年3月31日まで）

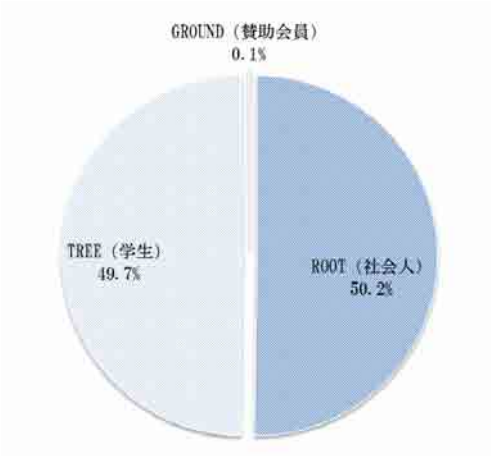
国際青年環境NGO A SEED JAPAN

科目・摘要	金 額	備 考
Ⅰ 収入の部		
1 会費収入	3,738,220	
TREE 学生正会員	83,000	23名
TREE 学生準会員	1,272,000	424名
ROOT 一般正会員	1,023,000	186名（口座引き落とし SPRING会員含む）
ROOT 一般準会員	1,325,000	265名
特別会費	5,220	オリエンテーション等参加費収入
会費収入 賛助会員	30,000	1団体
2 事業収入	37,467,091	
プロジェクト横断型事業	555,673	グリーンエコノミー啓発推進事業等
Rio20キャンペーン	97,400	（2012年4月より未来生活nowプロジェクト）
ごみゼロナビゲーションチーム	35,857,023	
エコ貯金プロジェクト	142,536	
生物多様性の利用をフェアに！プロジェクト	14,028	
森チーム	2,600	（2012年4月より つながりの森を未来へプロジェクト）
メディアCSRプロジェクト	245,084	
水源WATCH!プロジェクト	95,920	
ケータイゴリラチーム	298,111	
エシカルメタルプロジェクト	137,500	（2012年4月より未来生活nowプロジェクトと合流）
STOP水銀輸出プロジェクト	21,200	
電源カクメイプロジェクト	16	
3 助成金等収入	7,847,164	
プロジェクト横断型事業	7,394,850	グリーンエコノミー啓発推進事業等
水源WATCH!プロジェクト	452,314	
4 寄付金収入	3,834,736	
A SEED JAPANすべてへ	3,007,502	企業寄付を含む
Rio20キャンペーン	15,700	
ごみゼロナビゲーションチーム	236,698	
メディアCSRプロジェクト	97,300	
水源WATCH!プロジェクト	5,000	
ケータイゴリラチーム	260,833	
STOP水銀輸出プロジェクト	211,703	
5 協賛金	7,598,721	
ごみゼロナビゲーションチーム	7,598,721	
6 雑収入	12,784	
利息	12,784	受取利息等
7 事務所利用費	29,820	
印刷、コピー費	29,820	他団体の利用によるもの
当期収入合計 (A)	60,528,536	
前期繰越収支差額	40,780,733	2010年度繰越金
収入合計 (B)	101,309,269	
Ⅱ 支出の部		
1 事業費	53,528,957	
プロジェクト横断型事業	7,788,739	グリーンエコノミー啓発推進事業等
ごみゼロナビゲーションチーム	43,748,387	
Rio20キャンペーン	71,622	
エコ貯金プロジェクト	31,301	
生物多様性の利用をフェアに！プロジェクト	78,976	
メディアCSRプロジェクト	337,253	
水源WATCH!プロジェクト	412,335	
ケータイゴリラチーム	859,583	
エシカルメタルプロジェクト	0	
STOP水銀輸出プロジェクト	198,968	
電源カクメイプロジェクト	1,793	
2 管理費	7,523,850	
人件費-給与手当	2,082,152	フルタイムスタッフ
人件費-雑給	60,840	臨時スタッフ
人件費-福利厚生費	141,054	雇用保険等
人件費-旅費交通費	135,870	
地代家賃	2,040,000	
水道光熱費	136,385	
備品消耗品費	116,343	
什器費	0	
新聞図書費	520	
通信費	123,919	電話、FAX、インターネット等
発送費	275,360	通常業務発送、定期刊行物発送等
印刷費	37,639	複合印刷機、輪転機のカウンター・サプライ料金
リース料	60,393	複合印刷機、輪転機の保守料、リース料等
旅費交通費	207,408	スタッフ定期外旅費、事務局パートナー旅費等
研究研修費	0	参加費補助、開催費補助等
会議費	18,904	会議室使用料等
諸会費	15,000	
保険料	16,440	事務所火災保険料等
租税公課	918,700	消費税
支払手数料	11,840	振込手数料等
業務委託費	772,756	印刷製本費、ITメンテナンス、税理士顧問料等
雑費	82,326	洗濯代等
法人税	70,501	
減価償却費	199,500	複合印刷機
予備費	0	
当期支出合計 (C)	61,052,807	
当期収支差額 (A)－(C)	-524,271	
次期繰越収支差額 (B)－(C)	40,256,462	

会員内訳

会員総数（2012年４月末日時点）：896名

会員種類	会員数	割合	正会員	準会員
ROOT（社会人）	450	50.2%	185	265
TREE（学生）	445	49.7%	22	423
GROUND（賛助会員）	1	0.1%	－	－



2011 年度　役員一覧

代表／理事
草刈良允（慶應義塾大学大学院）
　水源WATCH！プロジェクト担当兼務

理事
羽仁カンタ（ごみゼロナビゲーション、FLAT SPACE）
　ごみゼロナビゲーション担当
善木大介（ごみゼロナビゲーション）
　ごみゼロナビゲーション担当
土谷和之（特定非営利活動法人 まちづくり情報センターかながわ）
　エコ貯金プロジェクト担当
小林邦彦（上智大学大学院）
　生物多様性の利用をフェアに！プロジェクト担当
鈴木秀和（友だちひろばなゆた）
　メディアCSRプロジェクト担当
木村真理子（ごみゼロナビゲーション）
　ケータイゴリラチーム担当
猪狩隆清（会社員）
　電源カクメイプロジェクト担当
小川暁平（アースデイ東京）
田辺有輝（特定非営利活動法人「環境・持続社会」研究センター）
三本裕子（特定非営利活動法人 日本NPOセンター）
岸田ほたる
　事務局長

監事
鈴木智子（鈴木智子公認会計士事務所）

国際青年環境 NGO A SEED JAPAN　2011 年度 年次報告書

発行：A SEED JAPAN
発行日：2012 年 6 月 15 日
編集責任者：岸田ほたる
編集・レイアウト：岸田ほたる・宮腰義仁

一人が動く。社会は変わる。
国際青年環境NGO A SEED JAPAN
〒160-0022　東京都新宿区新宿5-4-23　TEL 03-5366-7484　FAX 03-3341-6030
E-MAIL info@aseed.org　URL http://www.aseed.org/

A SEED JAPAN(Action for Solidarity, Equality, Environment and Development/青年による環境と開発と協力と平等のための国際行動）は、1991年10月に設立された日本の青年による国際環境NGO（非政府・非営利組織）です。1992年6月、ブラジルで開催された「地球サミット（国連環境開発会議）」へ青年の声をとどけるため、世界約50ヶ国70団体が参加して「A SEED国際キャンペーン」が行われました。その日本の窓口として、全国の青年の声をまとめ、国連へ提言書を提出したのが始まりでした。そして地球サミットを終えて会員制度を有する団体として新たにスタートしました。
私たちは国境を越えた環境問題とその中に含まれる社会的な不公正に注目し、より持続可能で公正な社会を目指しています。そのために現在の大量生産・大量消費・大量廃棄のパターンの変更と、南北間・地域間・世代間の格差をなくしていくことが必要だと考えます。このような社会を実現するために、未来の世代を担う青年自らが行動を起こしています。
（なお、A SEED JAPANは「ASJ」あるいは「アシードジャパン」と表記されることもありますが、同一団体を指します。）